

第1編 手作りローションの作り方

1～4℃に設定した冷蔵庫で、500cc 入り精製水2瓶を十分に冷やしてから、まずゴールド系統から開始して下さい。

ゴールド（ミネラルパウダー）系統

2つの 500cc 透明容器に、ロートを使用しながら冷やした精製水を、それぞれ 240cc (240g) 入れる。（ロート装着後にハカリにのせてゼロリセットして、測りながら精製水を入れる。）

片方の500cc容器（240ccの精製水入り）にロートを再セットした後に、ミネラルパウダーの外袋から内袋を取り出し、全量を容器内に流し込む。

ロート内を水きり

この『目標マーク』は、後工程にてご説明します。

ロート内にミネラルパウダーがたまらない程度に、少しずつ流し込むのがコツです！

ロート内で詰まってしまう場合は、ロートを上下に軽くトントンとゆずって落とす。

もう一つの 500cc 容器に入っている 240ccの精製水を、ロート内部を洗うように全て流し込む。

キャップを開けて 1～2分程度しっかりとシェイク。

冷蔵庫で2昼夜熟成・沈殿（1～4℃に設定）

半日程度経過後に、容器内側の入口付近に付着しているミネラルパウダーを洗い落とすために、静かに15度程度傾ける。

1日経過後にスプーンの背で容器の底を下から数十回軽く叩き、沈殿部を固める。底に気泡が発生している場合は、全て追い出すまで叩く。

容器底部の沈殿物を崩さないように、静かに上澄み液を320g以上採取。（熟成・沈殿工程で、容器底部をよく叩いておかないと、沈殿部が崩れやすく失敗しやすいので注意。）

この後容器を洗浄

目標マーク

直径 65mm の円筒形容器の場合は、底から約 105mm が目標。（事前に目印を入れる）

洗った容器にロートをセットして、ハカリにのせてゼロリセット。

320gに調整して一旦冷蔵保存し、速やかにシルバー系統の作業に移る。

シルバー（アクア・ダルモール）系統

この工程はとくに雑菌が入りやすくなるので、直前に手をよく洗浄。またアクア・ダルモールの袋も、水道水でよくすすいだ後、ティッシュ等で水分をふき取る。精製水は、よく冷やしておく。

袋は次の工程まで、手に持ったまま清潔に保っておく。

重要

アクア・ダルモールの袋に精製水を入れてすすぎ、ロート内に注ぐ。これを2～3度繰り返す。（成分の配合率保持が目的。）

ロートを容器に装着したままゆすり、しっかりと内部の液体を混合。（ロートが落ちないように、上から軽く指で押さえる。）

容器にロートを装着してハカリにのせた後に、ハカリをゼロリセット

アクア・ダルモールの袋の片隅を開封し、全量（15g）を流し込む。（粘度が高いため、袋をペシャンコにするイメージで、袋の端から指で押し出すようにする。）

袋をクシャクシャにすると内部にたくさん残るのでご注意！

ハカリが 175g を示すまで、さらにロート内を洗い流すように、精製水を加える。

精製水は、160g（160cc）加えたこととなる。

2系統の合流

保存していたゴールド系統の液体全量を流し込む。

しっかりとシェイクして手作り完成！

ご注意の補足1 — 手作り前に必ずご一読下さい！

- お料理をする時以上に、清潔さが大切です。手や指を石鹸でよく洗浄することはもちろんのこと、エプロン・三角巾・マスクを装着するなどして、清潔な服装で作業して下さい。また手や指に傷がある場合や手荒れがある場合は、落ち着くまではローションの作りをしないで下さい。
- 精製水の冷却や熟成・沈殿の工程は、4度以下の冷蔵庫で行って下さい。ドアポケットでは冷却が、不十分な場合があります。
- ミネラルパウダーを扱う際は換気扇の下で行うなどして、粉塵化した粉末を吸い込まないで下さい。
- ミネラルパウダーや手作り途上の液体が目に入った場合は、ただちに水で洗い流して下さい。
- 容器やロートの洗浄はまず水道水で、次に水道水に含まれる不純物の混入を抑えるために、精製水で仕上げリンスを行って下さい。（精製水 1000cc 中 360cc を、その用途に使用できる計算となります。第2編の小分け用容器の仕上げリンスにも、精製水をご使用下さい。）
- 容器やロートを洗剤で洗浄する場合は、重曹のみのご使用として下さい。また、容器等を洗浄するボトル洗浄ブラシ等は、本製品専用のものをご用意下さい。（石鹸や中性洗剤等の残留および異物の混入を避けるのが目的。）